

目 次

	序―わたくしのひとり言……………	(一)
一	P・C・マハラノビス……………	一
	インド統計研究所……………	一
	はじめての会合とマハラノビスの問題……………	一
	インド研究所のあけくれ……………	四
	教育者としてのマハラノビス教授……………	六
	インドの学問とマハラノビスの統計学……………	八
	インドの経済開発計画……………	三
	インド開発計画……………	三
	マハラノビス教授の統計思想……………	六
	数字に強い統計学者……………	六
	タゴールの遺業をつぐもの……………	九
	世界平和と南北問題……………	三
二	R・A・フィッシャー……………	三

近代統計学の定礎……………

初めての会合——あの町あのととき

日本から来た師匠のない独学者

統計学論争——フィッシャーとネイマン

経験に学ぶ者

リオ第一回会談——統計的決定論

リオ第二回会談——統計学の発展史

リオ第三回会談——フィッシャー教授の厚意

フィッシャー教授とエクスカージョン

キャンピナスにおける講演

巨人の孤独……………

標本調査のこと

信頼確率分布の問題をめぐって

移りし星

事実の確立ということ

三 G・スネデカーの使徒

——アイオア統計研究所の思い出——……………

四 プリンストンの友……………

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

目 次

	S・ウイルクスの思い出……………	七〇
	先駆者としてのウイルクス	
	学界の世話人としてのウイルクス	
	研究業績	
	在りし日の思い出	
	数理科学の提唱	
	J・トゥキイとデーター解析論 ……	七三
	特異な存在	
	特異な歩み	
	データー解析論への道	
	トゥキイの影響	
	五 N・ウィーナー……………	七六
	数学者ウィーナーの歩み……………	七六
	数学解析から	
	確率論から	
	統計科学から	
	サイバネティックスと思想の系譜……………	七八
	サイバネティックスの講演(第二回の会合)	

非線型統計理論（第三回の会合）

ウィーナーと私の歩みし道

三つの鍵と系譜

六 若き獅子たち

R・ベルマンと数理科学

若き獅子たち

ベルマン博士との会合

関数方程式の思い出

それからの交流

研究課題の連鎖につながるもの

研究室の日々

時代の産物

G・ボックスと適応制御

ストックホルムの夕——はじめての会合

プリンストンでの再会

統計学者ボックスの歩んだ道

E V O P の開発

適応制御への歩み

二〇四

二〇八

二一〇

二一八

二一八

二一八

二二三

二二三

二三四

二六六

二七〇

二七三

二七三

二七三

二七七

二八〇

二八四

二八五

七	あの山、この川	二五
	海外での遊と学	二五
	インドの思い出	二五
	研究と指導の間	二六
	絶えまなき前進	二六
	遊学は触媒機能	二六
	羅生門	二七
	科学の進歩と人類の幸福	二七
	レニングラードの友	二八
八	わが歩み	二八
	統計学と私	二八
	わが歩み	二八
	あとがき	二九